

今日のトピック 引き続き良好な内容だった米国の雇用統計（2018年9月） 労働需給の引き締まりにより失業率が大幅に低下

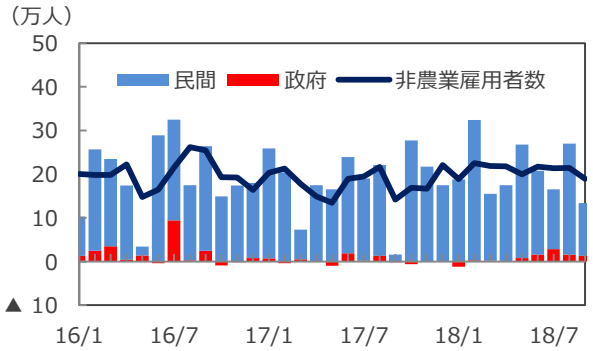
ポイント1 雇用者数は13.4万人増 特殊要因が影響、実態は良好

- 2018年9月の非農業部門雇用者数は、前月比13.4万人の増加でした。ブルームバーグ集計による市場予想の同18.5万人増を下回りました。
- しかし、当月は、米東海岸を襲ったハリケーンの影響を受けたと見られます。しかも、過去2カ月の雇用者数が合計で8.7万人ほど上方修正されました。これらを考え合わせると、雇用情勢は引き続き良好と言えます。実際、3カ月移動平均をとると同19.0万人増、6カ月移動平均では同20.3万人増となります。

ポイント2 失業率は大幅に低下 賃金も堅調に増加

- 失業率は3.7%と、前月の3.9%から大きく低下しました。労働需給の引き締まりが進んだことを示唆しています。労働力人口（労働供給）が伸び悩む一方で、就業者数（労働需要）が堅調に増えているためです。
- 一方、賃金は前月比0.3%増でした。前年同月比では+2.8%と、8月の同+2.9%から鈍化しましたが、昨年9月の賃金がハリケーンの影響で一時的に押し上げられたことが原因です。労働需給ひっ迫の影響は、賃金にも波及していると考えられます。

【非農業雇用者数の推移（前月比増減）】

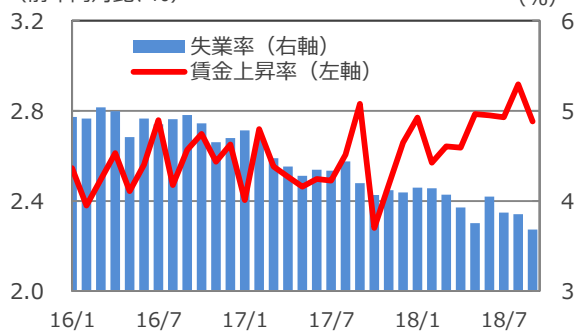


(注) データは2016年1月～2018年9月。

非農業雇用者数は3カ月移動平均ベース。

(出所) 米国労働省のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【賃金上昇率と失業率】



(注) データは2016年1月～2018年9月。

(出所) 米国労働省のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 政策金利は今後も緩やかなペースで引き上げられる見通し

- 雇用統計が公表された10月5日の米債券市場では、債券利回りが上昇（債券価格は下落）、株式市場ではダウ平均株価が下落しました。失業率が1969年12月に記録した3.5%以来の低い水準となったこと、雇用者数は市場予想を下回ったものの、前月の数値が大幅に上方修正されたこと等から、利上げの軌道に変化はないとの観測が強まったためです。
- 米景気・雇用の拡大を受け、米連邦準備制度理事会（FRB）は、政策金利を継続的に引き上げると予想されます。利上げの着地点は景気を刺激も抑制もしない金利水準（中立金利）とみなされる3%が、ひとつの目安と考えられます。この3%に向けて、年内あと1回、来年は2回程度の利上げが実施されると見られます。

ここもチェック! 2018年10月 5日 米国FOMCの『ドットチャート』は20年で利上げ停止を想定 2018年 9月27日 米国の金融政策は利上げを継続（2018年9月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。